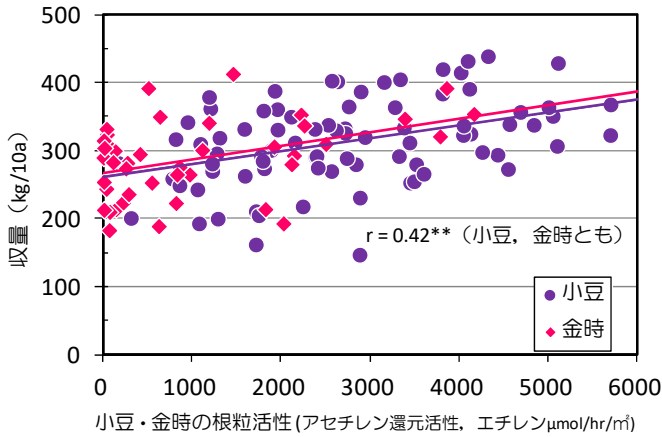


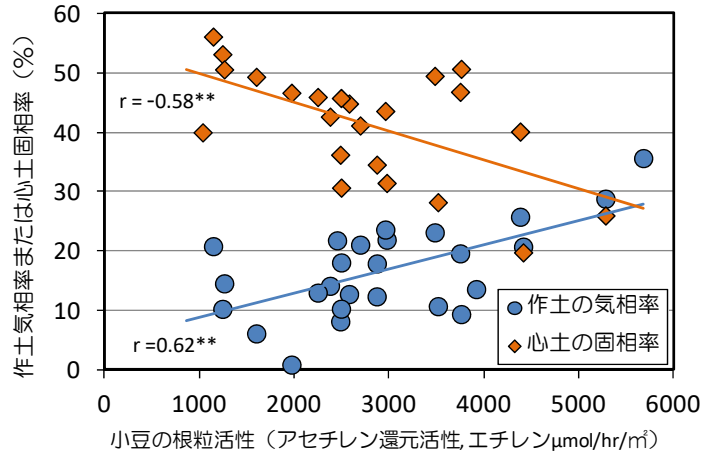
# 小豆や金時の根粒のはたらきを活かすには？

小豆や金時でも、大豆と同様、根粒のはたらきが大切です。

根粒活性の高い環境では収量性もアップ！



根粒活性向上には土壌物理性の改善を！

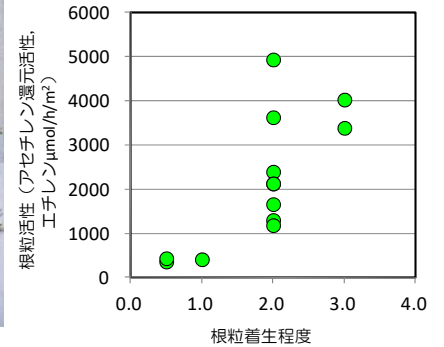
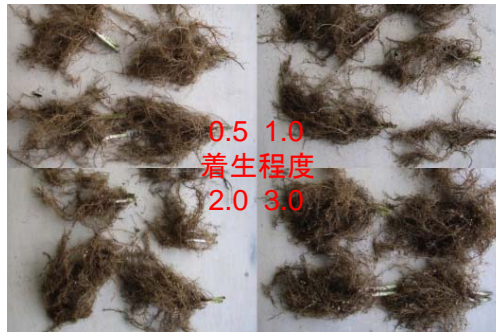


作土の気相率 (通気性) 改善・・・緑肥など粗大有機物の投入  
心土の固相率 (ち密度、排水性) 改善・・・心土破碎等

金時では、開花期頃の根粒着生を見ればその後の根粒活性が推測できる

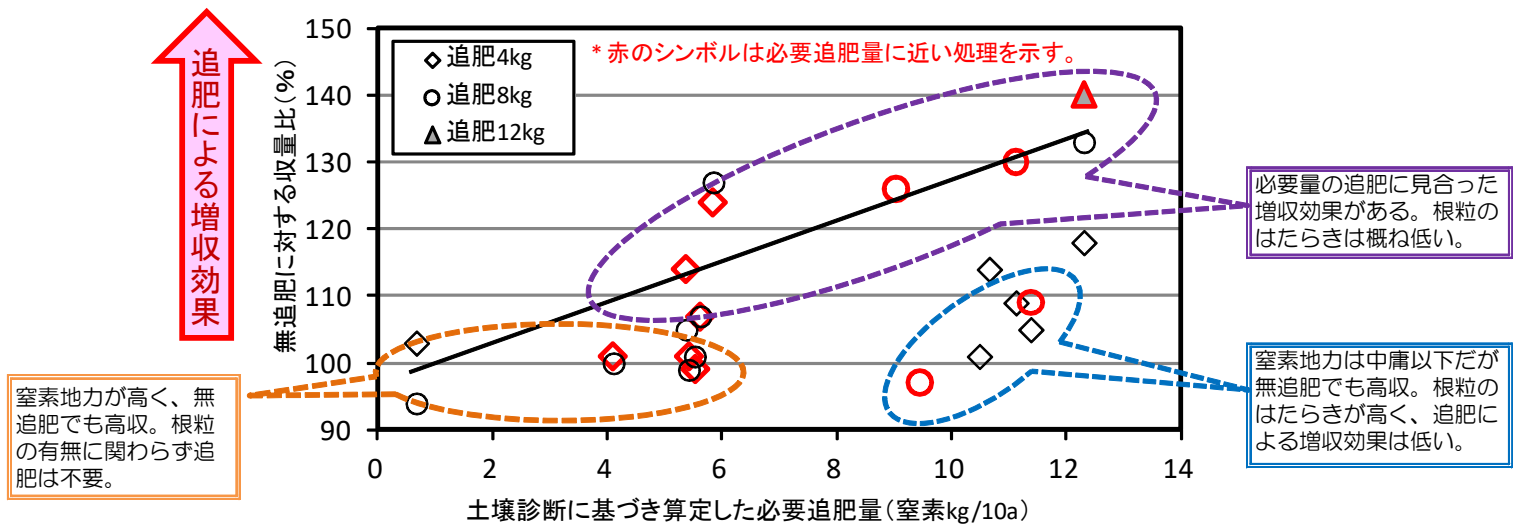
\* 根粒着生程度判定基準

着生程度	判定のめやす (採取株 (4株) 全体を目視し、一見して視認できる大きさの根粒の印象)
0	どの株にも着生が全く認められない (探して見つかる小さなものが存在すれば0.5)
1	一部の株に数個程度視認できる。
2	いずれの株にもまばらに視認できる。または一部の株にやや密生する部分がある。
3	いずれの株にもやや多め、または一部の株にかなり密生する部分がある。
4	いずれの株にも多数の着生を認め、かなり密生する部分も複数の株に目立つ。



根粒着生程度が高まるにつれて活性もアップ。根粒のはたらきが見込めるのは着生程度2以上？

金時では、根粒をあてにできない場合は土壌診断から算定した量の追肥でOK (高地力畑を除く)



必要追肥量：北海道施肥ガイド2010の金時窒素施肥量設定手順により、目標収量300kg/10aとして算出。追肥は開花期頃。

窒素地力は高くなくても、根粒のはたらきが見込めれば追肥は不要となる可能性あり (生育を見て判断する必要)